三都の女展―東京・京都・大阪における近代女性表現の諸相

会　期　2007 年 11 月 17 日（土）～12 月 24 日（日）

このたび、高崎市タワー美術館では、笠岡市立竹喬美術館、稲沢市荻須記念美術館との共同企画によって、明治末期から昭和前期にかけての東京、京都、大阪のいわゆる三都の女をテーマとし、日本画における女性表現の諸相を探る展覧会を開催します。近世においても女性を題材として描くことは、浮世絵版画だけでなく肉筆画でもたびたびなされていますが、生の女性を直視した臨場感に富む女性表現の作例は少ないように思われます。近代に入り、明治４４年の平塚雷鳥らによる女性文芸雑誌『青鞜』に代表される女性自立への動き、また明治 30 年代以後の国家主義への反発と社会主義思想の高まりによる社会の矛盾や弱者への共振、これらを受けて従来にない女性表現が展開されます。そのなかで、明治 40 年には文展が開設され、これに刺激されたかのように日本画・洋画の領域を越えた芸術運動が展開され、明治末年からは個性の表出が芸術表現の重要な要素となり、女性の姿は一層多様に描かれます。そして大正期になると、好景気を受けて都市への人口の集中化が進み、東京、京都、大阪の三都は近世以来の文化的土壌を背景として、それぞれ独自な芸術を育んでいきます。三都の女性表現は、共通する要素と異なる面をないまぜに次々に登場し、その表現のありようも三者三様という明確な区別はつけ難いものがあります。本展覧会は、東京、京都、大阪を代表する 59 作家の約 110 作品を前後期に分けて展示し、従来の美人画展とは異なる視点から、社会の目まぐるしい変化に敏感に反応する女性の生の姿、それを捉えた日本画家の眼、これらを直視して美醜を越えた女性表現の実相を提起しようとするものです。この機会に、三都それぞれで展開された百花繚乱のごとき近代における女性表現をご覧いただきたいと思います。

会　　場　　高崎市タワー美術館（370-0841 高崎市栄町 3-23 電話 027-330-3773）

時　　間　　午前 10 時～午後 6 時（入館は午後 5 時 30 分まで）
　　金曜日のみ午前 10 時～午後 8 時（入館は午後 7 時 30 分まで）

休 館 日　　月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）
　　会期中の休館日：11／19･26､12／3･10･17

観 覧 料　　一般：500 円（400 円）、大高生：300 円（250 円）、中小生：200 円（150 円）

- ()内は 20 名以上の団体割引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方 1 名、65 歳以上の方、未就学児は無料となります
- 毎週土曜日、小中学生は無料となります
- 前期をご覧いただいた方には、後期の展示を割安でご覧いただける前売券を販売いたします

主　　催　　高崎市タワー美術館、笠岡市立竹喬美術館、稲沢市荻須記念美術館

助　　成　　財団法人地域創造

後　　援　　朝日新聞前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞東京本社前橋支局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

関 連 事 業

- 学芸員による作品解説会　11／17、12／1、12／15　14：00～
- かけ軸を楽しむ―保管と取扱い　11／23、12／13　14：00～